

平成 8 年 4 月 24 日
宇 宙 開 発 事 業 団

地球資源衛星 1 号 (JERS-1) 「ふよう 1 号」の状況について (報告)

1. 衛星の状況経緯

- (1) 4 月 18 日 7 時 1 分に受信した衛星の姿勢軌道制御系のデータに異常が認められたため、同 7 時 10 分に観測を緊急対応手順に従って中断した。
なお、衛星は自動的に三軸姿勢制御モードから安全モードである太陽指向モードへ移行した。
- (2) 4 月 19 日 21 時 43 分に通常観測への移行手順として三軸姿勢モード移行のためのコマンドを送信し、20 日 2 時 20 分に受信したデータ評価の結果、三軸姿勢モードが確立されていることを確認した。
- (3) 4 月 22 日午後の軌道解析の結果、観測中断以前の軌道から変化しておらず観測再開のための軌道制御の必要は無いことが判明した。
- (4) 4 月 23 日 10 時 47 分に観測機器を観測待機状態にする作業を実施した。
- (5) 4 月 23 日 23 時 01 分に、観測再開のストアードコマンドを送信した。
- (6) 4 月 24 日 10 時 46 分からの鳩山地球観測センターでの観測データによって観測再開を確認した。(予定)

2. 衛星のデータ異常の原因

4 月 18 日は月による食(衛星が月の影に入ること)と日陰(衛星が地球の影に入ること)が連続して重なる状況にあった。しかもこの月による食が深かったこと及びパドル追尾用太陽センサの劣化により、そのセンサ出力が所要のレベルに達しないまま引き続き日陰に入った。このことからパドル追尾用太陽センサが長時間連続して太陽光をとらえていないと認識している状態となり、故障検知機能が作動し安全モードに移行した。

なおこの様な月による食と日陰が重なる状況は希な現象ではあるが、平成 5 年 11 月に発生している。その際には月による食が浅かったことから、姿勢軌道制御系に使用しているパドル追尾用太陽センサ出力が所要のレベル(故障検知判定値)を上回り、正常な制御が行われた。

3. 今後の対策

今回と同様に月による食と、日陰が連続して重なる現象は、今後も希に発生することと予想される。今回の経験を踏まえ月による食の深さとパドル追尾用太陽センサの劣化を考慮した手順を確立し対応することとしたい。

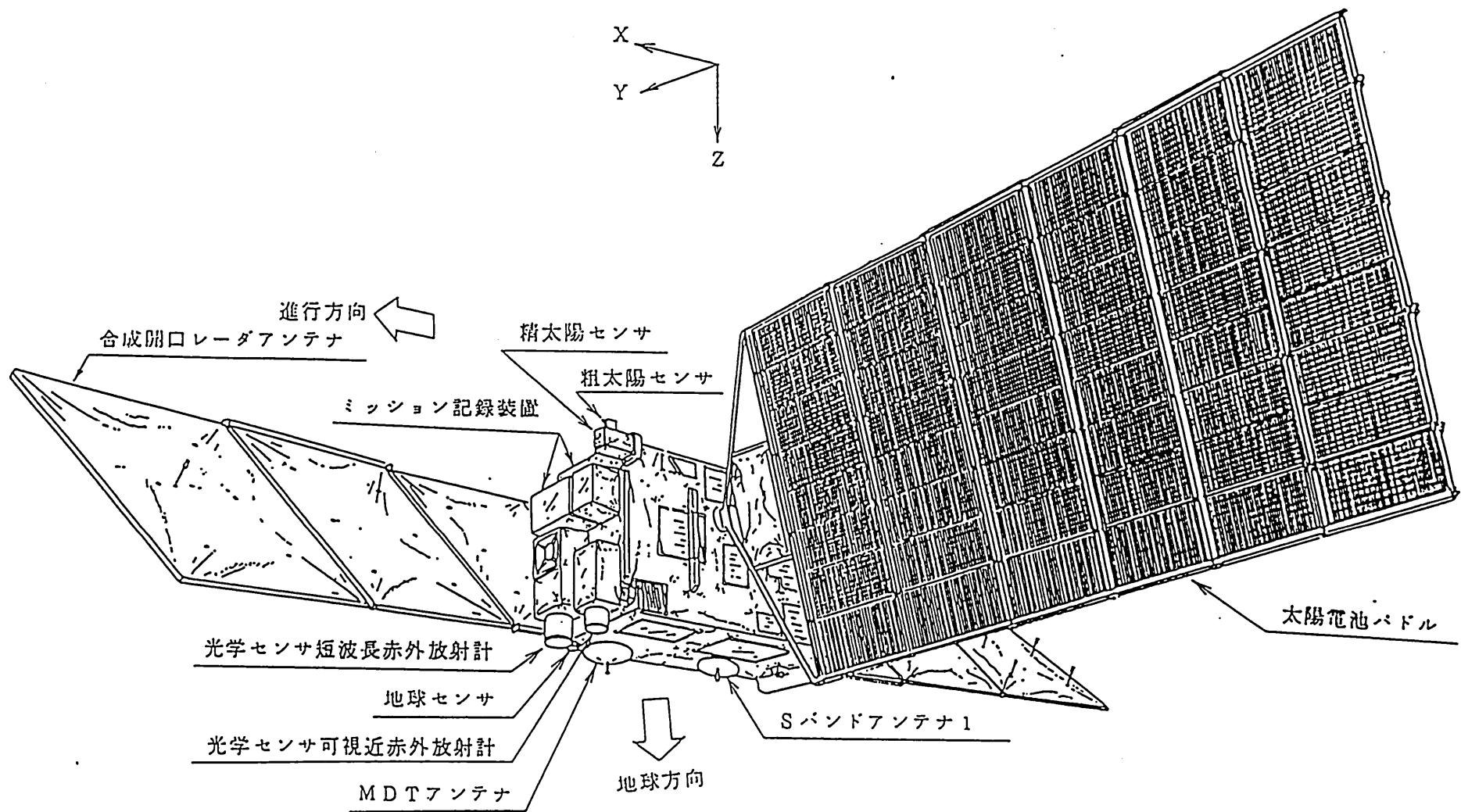


図-1 地球資源衛星1号軌道上コンフィギュレーション

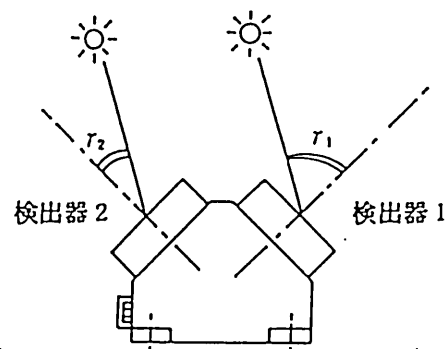
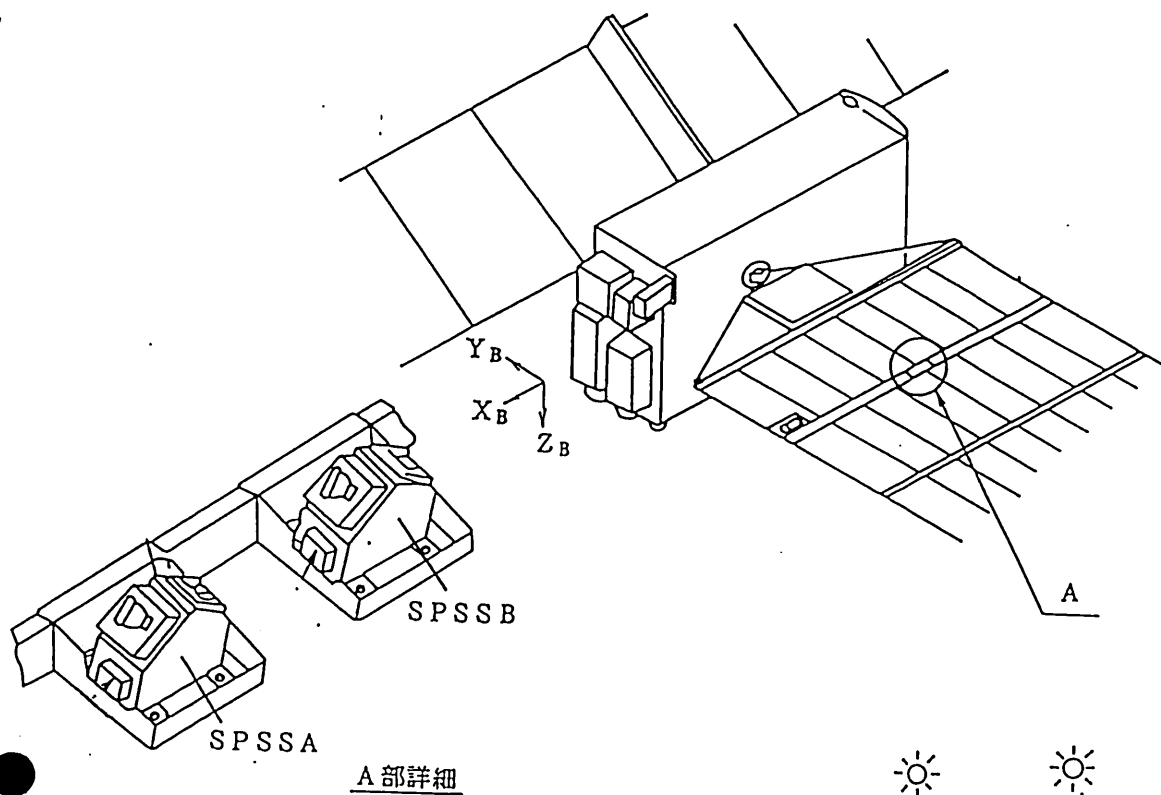


図-2 パドル追尾用太陽センサ

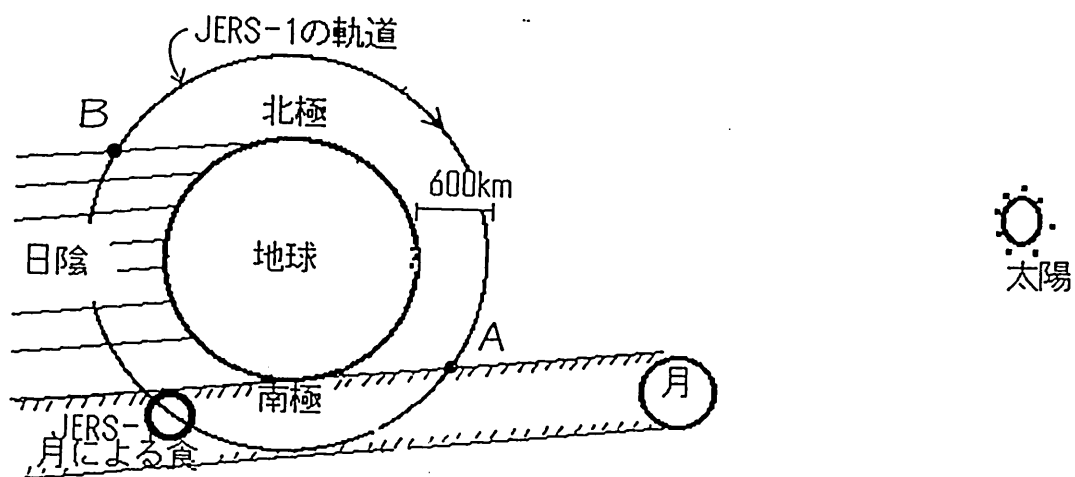
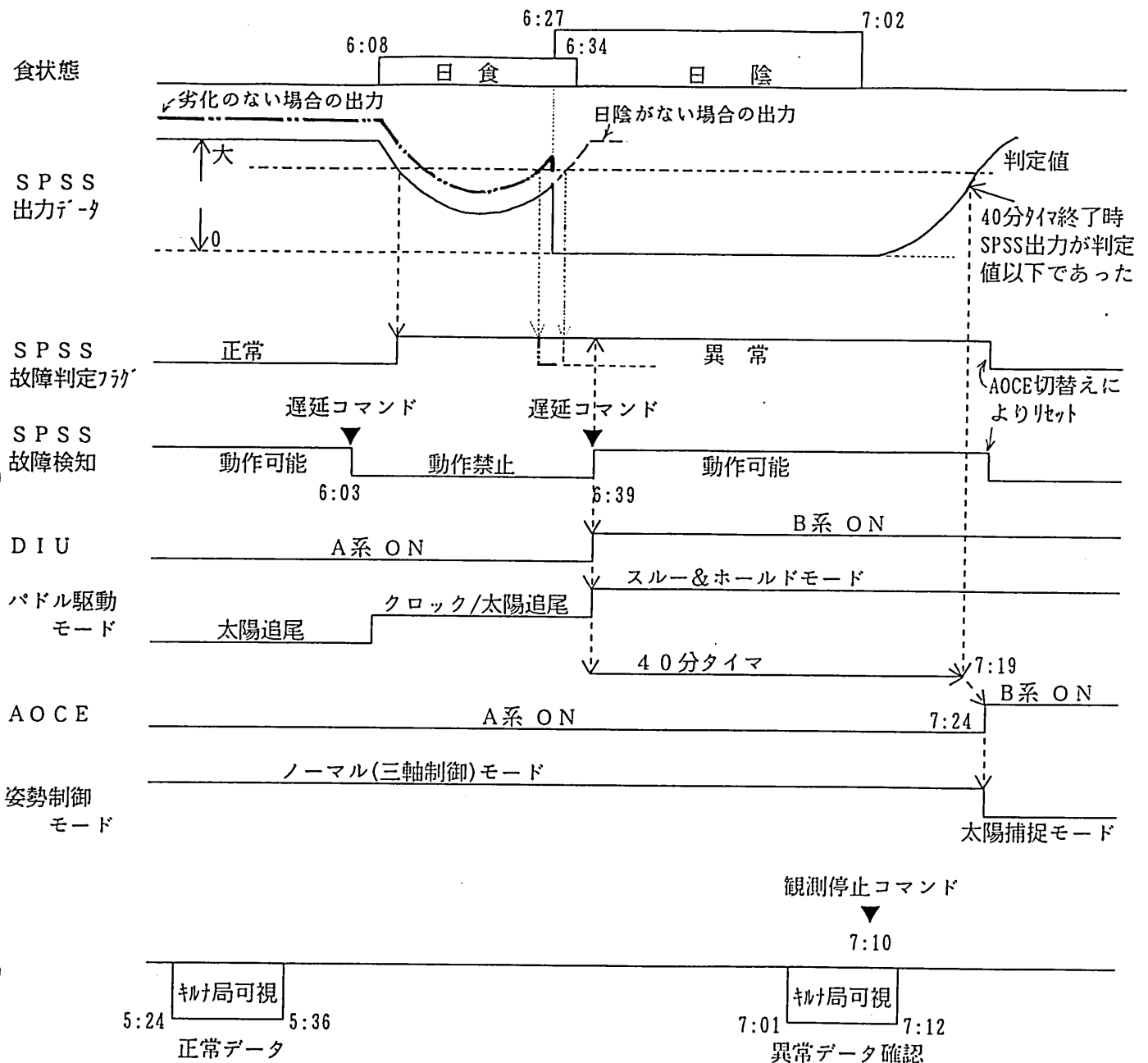


図-3 本現象時での月による食と日陰との関係

4月18日(日本時間)



- (1) DIU B-ON
(正常では A-ON)
- (2) 太陽電池パドル スルー&ホールドモード
(正常ではクロック→太陽追尾)

注) スルー&ホールドモード;

太陽電池パドルセル面を地球方向と逆の方向に固定させるべく早回しで回転させるモード

SPSS; 太陽電池パドル追尾用太陽センサー

DIU; ドライブ・インタフェース・ユニット

(太陽電池パドル系の信号をAOCEとの間でやりとりする回路)

AOCE; 姿勢軌道制御電子回路

図-4 姿勢軌道制御系姿勢データ異常の経過

公文書における年号について

平成8年4月24日
宇 宙 政 策 課

前回の宇宙開発委員会において、委員より、本委員会の文書で使用される年号は、平成よりも西暦の方が分かりやすい、という発言がありました。この件について、長官官房総務課に問い合わせたところ、以下のような解答が得られましたので、報告いたします。

- ・ 科学技術庁での公文書において、年号は原則として元号を使うこと。
西暦を使う場合は、可能な限り元号を併記する。
平成〇年（19〇〇年）

- ・ 根拠

平成への元号変更時での、内閣官房長官の「平成を尊重されたい」との談話に基づき、科学技術庁もこれに従う。

参考

られた種々の御意見を十分参考にして、法の運用に誤りなきよう、慎重に配慮してまいり所存である。

千三百年にわたる歴史を有する元号は、単に年を表示する手段として便利であるというだけでなく、長い歴史の過程の中で日本人の心情に溶け込み、日本国民の心理的一体感の支えにもなっていることは、一般に指摘されているところである。私は、こうした国民の元号に対する心情と認識は将来も保持されると同時に、西暦も便宜に応じて併用され、日本国民の持つ優れた叡知と良識とによって、変転きわまりない国際社会の中で、個性ある文化、伝統を生かしつつ、世界の動きとの調和が図られ、問題が解決されて行くものと確信する。

別紙 8

元号を改める政令等について

昭和64年1月7日閣議
内閣官房長官発言要旨

新しい元号の選定につきましては、先の閣議に御報告いたしました「元号選定手続について」に従ってその選定を進めてきたところでありますが、これからの新しい時代の元号とするのに最もふさわしいものとして、「平成」が選定されました。

元号を改める政令は公布の日の翌日から施行し、政令は1月7日に公布される予定ですので、改元の時期は1月8日であります。

新しい元号につきましては、内閣総理大臣談話に述べられているとおりであります。この際、新しい元号の使用等につきまして申し上げます。

従来から、元号の使用につきましては、一般国民は元号、西暦を自由に使い分けていただいてよいことになっております。

ただ、公的機関の事務については、従来から原則として元号を使用してきたところであり、この慣行は、今後も当然に続けられるべきものと考えております。

公的機関の窓口業務においても、従来、届出等の書類の年表示には元号を用いるよう国民の協力を得てまいりました。今後も公務の統一的な事務処理を円滑、迅速に行うため、引き続き、国民の理解と協力を得るようにしていただきたいと思います。もとより、これはあく

までも協力要請ということであり、西暦で記入されたものも受理されるものであることはい
うまでもありません。

なお、公的機関における届出等の用紙には、既に昭和の元号が印刷されているものも多い
と思われませんが、改元後においてそのまま使用されても法律上の効果が変わるものではあり
ません。しかし、このような場合には、「昭和」を「平成」と訂正して使用するなど、でき
るだけ混乱を招かないよう配慮していただきたいと思います。また、現行法令の中には、元
号を改める政令の施行日である1月8日以降の年月日が昭和の元号によって記されている場
合もありますが、元号が改められることによってその法律上の効果が変わるものではありません。
以上の点をお含みの上、各省庁関係の事務処理について遺漏のないようお願いいたし
ます。

また、政府関係機関、地方公共団体に対してもこのような趣旨で十分指導していただき
たいと思います。

それでは、以上で閣議を終了いたします。なお、関係資料が整い次第、私が記者会見にお
いて説明することにしたと思いますが、恐縮ですが記者会見が始まるまでの間、関係応接
室にてお待ちいただきたいと思います。記者会見が始まり次第御連絡いたします。

計画調整部会構成員（案）

平成8年4月24日

（部会長）

野村 民也 宇宙開発委員委員長代理

（部会長代理）

長柄喜一郎 宇宙開発委員

山口 開生 宇宙開発委員

末松 安晴 宇宙開発委員

飯田 尚志 郵政省通信総合研究所企画部長

井口 雅一 （財）日本自動車研究所

通信・電波応用（郵政省）

機械工学・技術一般

（技術評価部会部会長）

大慈彌省三 経団連宇宙開発推進会議企画部会長

大林 成行 東京理科大学理学部土木工学科教授

宇宙産業界

リモートセンシング

（日本リモートセンシング学会理事（5月から会長の予定））

小野 雅敏 通産省工業技術院東北工業技術研究所所長

海部 宣男 国立天文台教授

黒川 清 東京大学医学部教授

五代 富文 宇宙開発事業団副理事長

鮫島 秀一 NTTワイヤレスシステム研究所衛星通信研究部長

篠原 武三 電子航法研究所衛星航法部長

田邊 徹 東京大学工学部教授

ロボット工学（通産省）

宇宙理学・電波天文学

ライフサイエンス・宇宙医学

ロケット・輸送系（科技厅）

通信分野

航行援助（運輸省）

宇宙工学・宇宙インフラ

（長期政策部会部会長）

田村 和子 共同通信社論説委員

中野 不二男 ノンフィクション作家

野本 陽代 サイエンスライター

松尾 弘毅 文部省宇宙科学研究所

ジャーナリズム

科学技術評論家

サイエンスライター

宇宙工学・軌道工学

（文部省）

松野 太郎 北海道大学地球環境科学研究科教授

松本 紘 京都大学超高層電波研究センター教授

宮崎 久美子 東京工業大学工学部経営システム工学科教授

安田 靖彦 早稲田大学理工学部教授

山中 龍夫 横浜国立大学工学部教授

気候変動

宇宙理学・太陽地球間物理学

科学技術史

情報・通信工学

宇宙工学・宇宙環境利用

（宇宙環境利用部会部会長）